

63 徳次郎宿 ~ 大沢宿
 栃木県宇都宮市
 下徳次郎 ~ 中徳次郎
 (歩行距離 2004m 25分)
 歩く地図でたどる日光街道
<http://nikko-kaido.jp/>
JZE00512@nifty.ne.jp



徳次郎城跡

徳次郎城跡
 東側を田川が流れ、小田・西・南側を堀でかこんだ城址。土塁や堀が非常によく残っている。
 後北条氏と手を結んで宇都宮侵攻を企てる日光山僧兵の動きを封じるために、戦国時代に宇都宮国綱の家臣であった新田徳次郎昌言によって築かれたと云われている平城である。史跡や文化財等の指定を受け保護されているわけではないが、その遺構は関東地方の中世平城としてはほかに類を見ないほど良好に保持されている。



薬師堂
 道路に面した薬師堂の入口に廃寺になった荒れ果てた山門がある。右側の馬頭観音の側面には「右 山道 左 氏家・白沢道」と刻まれ、道標を兼ねていた。中央は如意輪観音が彫刻された十九夜塔で、左側は宝塔造りの六面腫六地蔵。



大谷道の道標



大谷道の道標 (道印石)
 交差点内にあり「大谷道」「下徳次郎」と刻まれ、かつては、ここから大谷観音に行く道があったが、現在は廃道になっている。ここからが徳次郎宿となる。



神明神社
 奈良時代に建立された古社。2頭の狛犬に願をかけ、力石が軽く持ち上げれば願いが叶うという。



神明神社入口の道標



徳地蔵堂 (あざじそうどう)
 あざやいばに困っている人が願をかけると直ちに治るというお地蔵。以前は日光街道沿いにあったが、平成6年(1994)に新しくお堂が作られ移された。



観音像



田中道の道標
 「神社入口道約五丁 田中道」と刻まれ、この道標付近には、かつて中徳次郎宿の本陣と問屋場があったと思われる。また「神社」は神明神社のことで奈良時代の建立。「宿村大概帳」に「門前村、田中村、西根村一跡にて徳次郎六郷と相喝采」と記されている。

この道は293号に出て「るまんちつく村」を過ぎ多気不動尊、大谷観音へ行く。

石仏
 江戸時代に入ると、庶民のあいだに観音や地蔵への信仰が大衆的な盛行をみせ、多種類の石仏が造立された。寺の本堂で礼拝する対象というよりも、庶民の日常的な暮らしをささえるものであり、また、墓標としての石仏となった。これらの石仏は、さまざまな挿話や利益が付与され、素顔の庶民信仰を感じさせる。各地域でみることができ、場所によっては、同じ種類の仏が集中していることもある。まれには、石工の名が刻まれることもある。
 ・民間信仰と結びついた庶民的石仏 ・庚申塔、道祖神など路傍の石仏がふえる ・五百羅漢、百代庚申などの大量造仏 ・墓石に刻まれる観音、地蔵の諸相 ・「講」を中心とした集団の存在などに注意して観察。



第六接号井

中徳次郎の町並み
 上・中・下のいずれの宿も徳次郎石を使った石蔵を造る伝統があった。今も残る石蔵は明治30年以降に建てられた大谷石の蔵が多いが、徳次郎石を用いた明治初期の石蔵も残っており、昔と変わらず石瓦で屋根を葺いたものもある。

石造りの土蔵
 街道筋に所々に残る白い石造りの土蔵は大谷石で「白き石を出せり。其質軟脆にして堅実ならず。宇都宮宿・小山宿などにて堂社又は土蔵の屋に用ゆるものなり」(日光道中略記)と記されている。

栃木県 宇都宮市

宇都宮市 上金井町
 田中米店
 ヘアーサロン川村
 桜電装
 富屋設備
 下金井
 関東ペプシコーラ
 高谷林の一里塚